

---

原作ブレイクも楽じゃない！。

ベルム

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

原作ブレイクも楽じゃない！。

### 【Zコード】

Z5772U

### 【作者名】

ベルム

### 【あらすじ】

もう原作ブレイクしかしないでおーん！的な物語！

主にこの作品は作者の戦闘描写向上のために書きます。期待しないでください。ついでに、主人公無敵モノです。

## ふりふり～ぐですか？（前書き）

きたいしないで！

お願ひだから！

期待しないで！

大事なことなので一回言いました！

సునుసులు?

卷一

ぐぶらああああああああああああああ

• • •

七八

俺、いま空飛んでいます。

でも、メツチヤ痛いです。

「が、俺なんて空飛んでんた二け?」

・・・ああ、そうか。俺、轢かれたのか。

死ぬのかな？まあ、この世には特に未練は・・・あつた。

やべえ、PCにエロゲのデータかなりあるww

軽く2桁後半ぐらいある。

下手したら3行あるよ。

「…………見つかったら俺死んじゃう！」

「…………あ、もう死ぬか。地面も近づいて

「オ、ガン

「いまの音は決してライ　イーンに乗る洗クンが叫んだ音じゃありませんよ？」

「そんなくだらないことを考へてると次第に視界が暗くなり、完全に暗くなつた。

「…………あ、どうだ？　真っ白い部屋に

「…………やべ、これなんてテンプレ？」

「俺死んだよな？　んで、この真っ白な部屋にいるってことは

「やあ、ほら！」

「…………いたよ。なんかメッチャかっこいいお兄さんが。

「何で幼女とかじゃないんだよーって思ったのは内緒だ。」

「それはすまないね」

「……あんたなん。ああ、心読んだのか」

「へえ、驚かないんだ」

「まあ、な。んで、ここがテンプレの世界だと想つから、あんたは『神』ってどこか?」

「んー、遠くもなければ近くもない、ってどこかな」

「ビーウーー」とだ?」

「神様じやねーのか?そりゃ残念だ。俺、これでも神様信じてたんだ?」

「ああ、いや。神様はいるよ。」

「まじでー?」

「うん。……で、僕はその上に位置する『世界の管理者』ってやつだよ

「『世界の管理者』?」

「なんだそりゃ?まあ、読んで字の如くの意味だと想つナビ。」

「その通り。僕は『世界』を管理してるものだよ。ああ、でもこの世界つてのは地球とかのことじゃなくて、物語とかの『世界』。・つまり、『異世界』っていえばいいのかな?」

「ああ、なんとなくわかった。要するに、俺が生きてた世界とかその中の物語の世界を管理してるってことだな?あんたは、『まあ、そういうことだね。・・・で、僕たちがその『世界』の神を創り出してその創り出した神に指示をするんだ』

ほつまう。だから神の上の存在ね。

「で?その神様より偉い『世界の管理者』さんが俺に向のよつです

か？」

「文章構成がめちゃくちゃだよ……」

んなこたあ、今までうまいんだよ。

「で？」

「で？って……はあ、もうこいや。何で僕がいるのかってことだよね？」

「うん」

「まあ、単刀直入に言つと、君に異世界に行つて欲しい」

「……うん。なんとなく予想できた」

「それは結構……で、その世界で原作をぶち壊して欲しい」

「……はい？」

「ああ、大丈夫。君の知つてゐる世界だから」

「いやいやいや。俺が言ひたいのは原作をぶつ壊してもいいのか、つてこと」

「うん、ぜんぜん構わないよ」

「世界の修正力とかはたらかない？」

「うん。はたらいたとしても、こいつちで無理やり壊すから」

うふ。メシチャいい笑顔で何言つてやがるんだですかね？この人（…）は。

「それで、なんか欲しい力とかある？」

「……それは何個までだ？」

「僕の限界まで」

「おおう。それはいい。これはいいものだ。はやくキ（…）

「んじや……と」「ううで、俺どこの世界に飛ばされたの？」

「恋姫」

「恋姫・・・」

恋姫つて・・・メッツチャ乱世ジャンーえ?何この死亡フラグ?行つた瞬間『死んじやつた』とかしゃれになんネーよ!

「ああ、大丈夫。本編終わるまで絶対死ないから」「・・・・・・さいですか」

・・・・・・とりあえず死なないらしい。つかあんた、本編とか言ひなよ・・・。

「じゃあ、まず俺のP Pとかプ 2のメモリの中の『無双』と付くゲームの技とか使えるようにしてくれ。それと、その技を完璧に扱えるだけの身体能力も」

とつあえず三国つながりでやってみた。反省はしていない。まあ、できない

「余裕余裕」

「まじか・・・。じゃあ、気も完璧に使えるようにしてくれ」

さすがにこれは常識外

「おぐおぐ」

「・・・・(樂進いたんだつた)。じゃあ、いろんなもの入れる」とできる『王の財宝』みたいなやつくれ。できればそんなかに何千万の人が数千年単位で生きていけるぐらいの食料をいれて

まあ、こんぐらじ無理なこと言え!b

「うん、いいよ~」

「・・・まあなんですかあんたは」

「『世界の管理者』」

最後の『』『』『』・・・つか、もひ可でもありジャン。

「最後にその世界の言葉とか文字、地理とか完璧にわかるよついしへくれ」

「ほいほい~」

「なんかキャラ変わつてね?」

「そんなことはない(キリッ)

「・・・はあ、もういいや」

まあ、こんだけあればいいな。

「んじゃ、これで」

「え? もういいの?」

「え?」

「え?」

え? 何言つてんでしょうか? これだけつて・・・。

「あ、ああ。これで十分だと思つんだが・・・」

「そつか。わかつた。じゃあ、確認するよ?」

「おつ」

「まず一つ目、『無双』と付くゲームの技を完璧に使えるようにするど、それを完璧使えるぐらいの身体能力。これに熟練度とそのゲームに出てくるキャラが使つている武器もたしておくよ。もちろん君がチートつかつて出した武器もね。あと、身体能力は君が知つて

いる漫画とか小説とかに出てくる最強の人物を全部足したくらいにするよ。哀川さんとか我流Xとか。ついでに霸氣で人を氣絶、殺氣で人を殺せるくらいに設定するよ。おまけで戯言シリーズに出てくるスキルを本人の10倍程度うまく使えるようにしておくよ。たぶんこれだと私生活にいろいろ支障が出ると思うからリミッターもつけるね」

それなんてチート?つか、チート武器あるだけで無敵じゃね?

「2つ目、『氣を完璧に使える。これは某球を7個集めると龍が出てくる漫画の全員分の氣と熟練度。かめはめ波とか放てるし、スーパー野菜人にもなれるよ。応用として病氣とか治しておけるようにするよ』

わーい、金髪だー。（棒読み）

「3つ目、『王の財宝』見たいな倉庫に無限の食料。この倉庫は『神の倉庫』<sup>ベアリニアス・ハウス</sup>と名づけていろんなものを入れておくよ。いろいろ、ね。で、食料用に別の倉庫も用意するよ。こつちは『無限の食糧』<sup>アンリミテッド・ガイア</sup>と名づけていくらでも食べ物が出てくるようにするよ。自分が『あれ、食べたいなー』と思うとでてくるようにもしておくよ」

うれしー。（棒読み）

「4つ目、地理と文化。これはそのまんま頭に突っ込んでおくよ。読む速さは1秒で300文字程度。地理は谷の中にある岩の数までで、こつちは隨時更新。あと、超天才にしておくよ。天才や天災も真つ青なぐらいにw」

うわ、こいつ笑いやがった！なんかムカつく。

「サービスで10人中10人振り向く美人にしておくよ」

「あんが つておい！俺は男だ！」

「大丈夫。髪結べば10人中10人見ほれる（女子限定）美男子になるから」

「…………さいですか」

よかつた。女になつたら俺死ねる。

「まだまだ余裕だけどこんだけでいいの？」

「・・・ああ、こんだけあれば十分」

「ホントにホント？」

「・・・ああ」

「ホントに？」

・・・なんかいつまでも続きそつだからもう一個いつてやるか。

「じゃあ、結界張れるようにしてくれ」

「結果いつていつてもいろいろあるよ？人払いとか認識阻害とか」

「そういうの全部ひつくるめて」

「おｋ～理解理解」

ホンシト軽いなこいつ。これで神よりえらいんだから笑えネーよな。

「あとは？」

「ない」

「ホントに？」

「ホントに」

「大丈夫？」

「大丈夫だ、問題ない」

死亡フラグ立つた気がしたが、もうこれ以上は望まない。なんか怖いから。

「じゃあ、いってらっしゃい」

そう管理者がいった瞬間、俺の体が粒子みたいになつていく。

「あれ？足元暗くなつて落すんじやないの？」

「それは神のやり方。僕たち管理者はもつと高度に優しく転送する

よ

「それは、ありがたい」

そんな会話を最後に俺は意識がなくなつた。

はーい

言いたいことはわかつていろ

だが何せわないで！

## 主人公設定（チートがwww）（前書き）

とりあえず紹介おば

## 主人公設定（チートがwww）

主人公

名前：まだ決まっていない（真名は決まってるけど性と名と字が決まってないのでいいものがある人は教えてください、まる）

身長：183cm

体重：60kg

B／W／H：そんなもん知らん！

容貌：髪を解けば超美人。髪を結べば超美男子。

髪：黒（漆黒に近い？）

性格：基本冷静だが面白いことを追求するあまり熱くなりやすい。  
熱くなるときは松岡 造並みに熱くなるかも？悪を見逃せなくお人好しだが、適には容赦がない。生理的に無理なやつはくびちゃんぱんで終了。

設定：普通の男子高校生だったが、トラックに轢かれて死亡。

神の上に位置する『世界の管理者』により恋姫の世界に転生？した。前作の知識は完全にある。つか、この主人公、自他共に認めるエロゲマイスター。その攻略の速さと、核心を突いた批評は一部のエロゲーマーの間で『エロゲ神』とあがめられている。その手腕は普通のゲームにも発揮され、彼のブログは最低でも1日に1万人はみに

来る。勉学は中の上だが、物事の先の先を常に見ているため、何か達観された雰囲気をかもし出している。運動神経も悪くなく人並み以上にできる。隠れファンが存在していたようだが、本人はまったく気づいていない。鈍感。ちょく鈍感。だが、はつきりとした好意には気づき、それなりに意識する。

転生してからは「これからわかるので、本編が始まつてから」には更新します。

## 能力

### 【1つ目】

『無双』と付くゲームの技を完璧に使えるようにすると、それを完璧使えるぐらいの身体能力。これに熟練度とそのゲームに出てくるキャラが使つていてる武器。チートつかつて出した武器も。身体能力は知つていてる漫画とか小説とかに出てくる最強とか最凶の人物を全部足したくらい。哀川さんとか我流Xとか。霸氣で人を氣絶、殺氣で人を殺せるくらいに設定。戯言シリーズに出てくるスキルを本人の10倍程度うまく使える。私生活にいろいろ支障が出ると思うからリミッター付き。何か知らんが『戦国BASARA』のやつも使えるようになった。

### 【2つ目】

氣を完璧に使える。某球を7個集めると龍が出てくる漫画の全員分の氣と熟練度。かめはめ波とか放てるし、スーパー野菜人にもなれる。応用として病氣とか治せる。

### 【3つ目】

『王の財宝』見たいな倉庫に無限の食料。この倉庫は『神の倉庫』ベアリアス・ハウス  
アンリミテッド・ガイア。いろんなものが入つていて。食料用に別の倉庫『無限の食糧』。

いくらでも食べ物が出てくる。自分が『あれ、食べたいなー』と思うと出てくる。

**【4つ目】**  
地理と文化。読む速さは1秒で300文字程度。地理は谷の中に  
ある岩の数まで、隨時更新。超天才。天才や天災も真っ青なぐら  
いに。

**【5つ目】**

結界が張れる。人払いから消滅結界、果ては隔離結界まで張れる。

例

**隔離結界**

あらゆるもののが法則を無視して、この世から隔離する結界。主に  
遠距離武器を無効化する。

主人公設定（チートがWW）（後書き）

チートがWW

「は・・・あれつ！？」（前書き）

メッチャ久しぶり

つか、他の2作品が続き思い浮かばないから

とりあえずこつち書く。

主人公設定ちょっち変更。

「ん? もうひいたの 」

「ん? もうひいたの 」

とりあえずやつてき・・・ていません恋姫の世界。

つか、何ぞやつて同じ『丑ニ恋姫』にいるんだ?  
え?

マジ意味わかんねーんだけど?

I don't know.

こんな感じ。

『やあ、いい感じに混乱しているみたいだね』

「誰だ?・・・って、あんたか

『じゅじゅーん。またあつたね』

「さつきあつたばつかりじゅーか

『まあね~』

つべづべ軽こいやつだなこつ。

「で?

『で?つて、何?』

「のヤロー。あえて分かんない振りしてやがんな。

『何で俺がここにいるのか、つてことだよ  
『ああ~, そのことね』

「ああ」

『それはね』

「おひ」

『ひひ』で力を制御できるようひひしてもらひためだよ  
「・・・は？」

力を制御できるようひひて・・・もしかして。

「あまりにも強過ぎて、今のままじゃ十分に力を發揮できない、とか？」

『そりそり、正解。いきなり強大な力を付けちゃったから、ちゃんと制御しないと大変なことになるからね』

「・・・たとえば？」

『テ「ヒンで頭がバーン』

「・・・怖っ！」

「ちょ、軽い冗談でやつたつもりがテ「ヒンでバーンとか・・・。マジあぶねーな。」

「あれ？でも、一般生活に支障が出ないようヒミッターかけたんじゃないのか？」

『うん、そうなんだけどね・・・』

「どうしたんだ？やけに歯切れが悪いな」

『その、なんていえばいいのかな？一応リミッターかけたんだよ？でも、そのへ、リミッターが甘かたつていうか何て言つか・・・。とにかくちょっと失敗してしまつてね』

「ふうん」

失敗した、ねえ・・・。

まあ、考へても仕方ないか。

「・・・わかった。俺もどうやって技の確認しようか悩んでいたし  
な」

『ホントかいー。』

「ああ、ここでならなにやつても良いんだろ?」

『ああ、もちろんんだとも』

「じゃあ、ここには何べらかにされよ?」

『え?』

「え?」

え? なにその『何言つてんのこの人』みたいな顔。  
ちょっとこりつてくるからヤメロ。

『いへりでもいて良いよ?』

「いへりでもつて・・・大体何年へり?」

『何百年でも何千年でも何万年でもここでも良いよ』

「・・・マジでか?」

「うと」

「うわ~、まじだ?

そんないても良いのか?

「・・・うと、もうこいや

『おひへ』

「じゃあ、遠慮なくこわせてもいいわ

『おひへ』

よし、じやあ早速やりますか。

『あ、そうそう。『戦国BASARA』って言ひゲームの武器とか  
技とか使えるよにしておいたから』  
「なにやつてんねんっー。」

今のは突っ込まざるを得なかつたと思つ。

（数百年後）

ふう。

やつと全部の型をマスターした。  
もともとその武器を使つてゐる本人と同じ程度使えるが、そこから  
さらに修練を積んで、究極にした。  
自分で技も作つたし、力も制御できるよになつた。  
氣も完璧にして、体に纏つて相手の攻撃を受け止められるよにな  
つた。

・・・何かスーパー・マンより強くなつてゐよ、俺。

そうそう。

型といえば、面白いことができるよになつた。  
たとえば

【刀フォルム】

だと、織田信長（無双）・明智光秀（無双）・伊達政宗・石田三成・  
バサラ  
バサラ

上杉謙信の技を組み合わせて臨機応変に攻撃できるようになった。  
バサラ

信長のダーカマターを撃つた後に、三成の号哭でさうに追い討ちをかける。最後に正宗のTESTAMENTでけりをつける。もちろんタメなし。

・・・敵にとつてはまさに『これなんて無理ゲー?』って気分だろ。  
攻撃する自分ですら

「無敵なり。ワロスワロス（棒読み）」  
といふぐらい呆れてるのだから。

「アーティストのアーティスト」

あ、ちなみにせつ(刹)つてのは『世界の管理者』の渾名だ。いつまでもお前やあんたで呼ぶのやれすがにちよつと・・・な。

『なんじやうな』

『おへ、おたか』『おへ、おたか』

無駄にかつこつけんな。

「修行終わつたから、そろそろ飛ばしてくれ」

『おれへもいこうの?』

「ああ、これ以上は無理だと思うからな」  
「・・・うわあ～。確かにこれ以上は無理だわ。下手したら俺の創

つた中級神より強いぞ？上級神といい勝負ができるかも』

「・・・立派な人外じゃねーか』

『あはは・・・そだねー』

「ま、いつか』

まあ、強くて困ることなんてな・・・・・バトルジャンキーに絡まれるか。

負ける気はないから、返り討ちにするんだ。

『じゃ、まずいってひりしちゃい』

「オウ、いてくるぜ』

そう言って今度こそ粒子となり消えていった。

「…………あれ？…？」（後書き）

黒子のバスケおもしろいね。

俺は縁側のシシマリがすき。  
あとでG。

「口も可憐こと細ひなび・・・ナレハくん、ビリヨン・

よしー今度は恋姫の・・・か? (前書き)

方向性を変えよ! と思こまか。

よし！今度こそ恋姫の・・・は？

「・・・ん？ ついた・・・か？」

今俺は荒野の中に一人ポツンと突っ立っている。  
なんか恋姫っぽいので、たぶん着いた、と思いしたい。

「あのアホのことだ。絶対何かやらかしてくれてる」

と思いつながらも、とりあえず場所確認。  
はじめにもらった能力を使って

「え？」

え？

何この地図？

何で地方ごとに国の名前が出てきたの？

しかも、【伏儀】やら【神農】やら【女?】とか。大部分は【黄帝】  
となっている

・・・あれ？ これって漢民族の神話に出てくる三皇だよな。あと、  
五帝初代もいる。

もしかしてここって紀元前？

・・・今紀元前何年よ？

・・・紀元前約10万年前・・・。

・・・刹エ・・・。

- 少々お待ちください -

・ ・ ・ よし -

こんなところで悩んでいても仕方がない。  
とりあえずは、今を生きることが一番大切だ。  
刹も原作終了までは何があつても『死がない』みたいなこと言つて  
たしな。

・ ・ ・ あれ?

原作つて確か西暦180年あたりから始まつた気が・・・。

・ ・ うん。

今考えるのはやめよ。

とりあえず、原住民に遭わないとな。

・ ・ ・ って言つても、あの3人の誰か・・・。

じゃあ、まずは一番近いところから逝くか。

おつと、間違えた。

行くか。

- 移動中 -

ここはとある辺境の地。

ここにいる3人がいる。

地図に載つていたが、別に土地を治めているわけではなく、ただそ  
こにいるだけ。

ただ、神として。

おつと、おら・・・そういうえば名前決めてなかつた。

Side・主人公

・・・よしー俺の名前はこれから『命泉』だ。  
由来は・・・なんとなく！  
・・・ではなく。

『命』は訓読みで命。つまり生をあらわしている。  
『泉』は熟語を作つて黄泉。つまり死をあらわしている。

二つ合わせて『生死』。

そのままだつたらあからさまだつたから、ちょっとこじつて『命泉』。

まあ、こんな感じだ。

とこりとこり。

Side・命泉

おつす！オラ命泉！

今から伏儀に会いに行くといふだ！

・・・どこの下級戦士だよ。

まあ、そんなことはいいとして。

今俺はメツチャでかい屋敷の前にいる。  
たぶんここに伏儀がいる。

地図にもやう示されているし、

何より大きい門にでつかく『伏儀』と書いてある。

左側に『伏』、右側に『儀』と黒字の達筆で。

正直メッサ入りたくない。

できることならこなとこいとせ早くおわいぱしたい。

だが、だが！

俺の感が告げている！

入らなければ後悔する、と！

・・・こうなつたら仕方ない。

俺も男だ。

覚悟を決めて、門を叩く！

「すいませーん。誰かいませんかー？」

・・・返事は返つてこない。

もう一度。

「すいませーん。誰かいませんかー？」

・・・またも返事なし。

だが、確實にこの屋敷の中に生命反応がこくつかある。

・・・居留守か。

「俺に対しても居留守たあ、いい度胸してんじゃねーか

さすがに居留守と分かつていてこのまますいと退散するほど俺は  
優しくない。

「と、こいつ」とで

バーン

と、馬鹿でかい門をロミッターを全部掛けた状態の5%ぐらいの力で蹴り破る。

神の加護でも掛かっていたのか、思った以上に抵抗があつたが、難なく蹴り破る。

5%といったが、これでも城1つ一撃で落とせる威力がある。

前に刹が『上級神といい勝負ができる』といったが、あれは俺がリミッターを全部掛けた状態で全力でやって、いい勝負ができるということだ。俺のリミッターは3つあって、全部外すと、刹と互角に張り合えると思う。勝てないけど、まあ、負けることもないと思う。良くて引き分け。悪くて両方とも死ぬ。

と、まあ、くだらないこと考えてるうちに、生命反応が近づいてきて

「何人ん家の門ぶつ壊してやがりますか」のヤロウ

伏儀さんがログインしました。

P・S・

ちなみに伏儀さんは無双に出てくる  
ナイフ・ガイではなく、体の凹凸が激しいないすばでお姉さん  
でした。

俺も驚きが隠せません。

女のは・・・恋姫の世界だからだと思います、まる。

よし！今度こそ恋姫の・・・は？（後書き）

まさかの紀元前10年前！！

伏儀さんが登場！！

俺は女？を早く出したい。

伏儀さんとふあーすどーんたくと（前書き）

伏儀さん・・・

・・・あなた

## 伏儀さんとふあーすとこんたぐと

Side・命泉

「何人ン家の門ぶつ壊してやがりますかこのヤロウ」

そう言つて出てきた人（神?）は

「・・・おおッ」

ボン、キュ、ボンなお姉さん。無双に出てくるあの人（仙人?）か  
と思ったが、さすが恋姫の世界。三皇の一人である伏儀も女体かだ！

### 伏儀

『易經』繫辭下伝に天地の理を理解して八卦を書き、結縄の政に  
代え、蜘蛛の巣に倣つて魚網を発明したとされる。現在、房総半島  
の九十九里浜に、有結網として10種類の結び方やその連ね方の伝  
承が遺る。漢字が黃帝の史官蒼頡によつて開発される以前の文字に  
関する重要な発明とされる。また漢代に班固が編纂した「白虎通義」  
によると、家畜飼育・調理法・漁撈法・狩り・鉄製を含む武器の製  
造を開発し、婚姻の制度を定めたとある。また、漢民族の間では神  
として、多くの国では半人半獣の神として知られている。

・・・まあ、なんだ。要はものすゞくすゞい人（神?）だつてこと。

八卦つてのは、乾、坤、震、巽、坎、離、艮、兌の八つからなり、

2つずつ組み合わせることで六十四卦が作られる。

それぞれに属性があって、順番に天、地、雷、風、水、火、山、沢だ。

東の『坤を創造する 度の 力』とかもこの八卦から来ている・・・と思つ。

まあ、それは置いといて、

「あ～、貴方が伏儀さんか？」

「いかにも。私の姓は鳳、<sup>ほう</sup>名は伏儀。門を蹴破つてくれた貴方の名前は？」

「居留守をする伏儀さんも悪い。・・・俺の姓は天、<sup>てん</sup>名は修羅だ」

「ふーん」

そういえば前に刹が、

『あ、そうそう。そういえば信君（今で言う命泉）、なんか知らないうちに武の主神と知の主神、あと豊穰の主神、つまり、神達のトップになつてたよ？ホントなんだろ？』

・・・ありや、ぜつて一刹がなんかやつたと俺は睨んでる。

で。

俺の名前の由来は、日本の主神である天照大神と天龍八部衆の一神である阿修羅から取つた。

二神とも、俺より位は下だから勝手に使っても大丈夫だろ？

「で？修羅さんは私に何か用でも？」  
「いや、用があるわけじゃないけどな……一応挨拶に来たわけだが」  
「が」

そう言って俺は少しだけ神力を放出する。

「…？（な、なんて濃くて大きい神力！）の方はいつたい誰なの…？」

「まあ、なんだ。邪魔ならすぐどうかに行くが」

「あ、いえ、私の家でよければゆづくつしてこつてください（とつあえず私より格は高いと見た）」

「いいのか？」

「はー（まずはどのくらい高いか見極めないと）」

「じゃあ、お言葉に甘えて。失礼しまーす」

「じゅう（修羅さん、覚悟してくださいねー）」

・・・心の声聞こえるんだがどうすればいい？

いや、何かね、自分より下の神とか生命体（魂？）の心が読めるようになつたんだよ。

だから、ね。

正直メシチャ困る。まだ、俺はON・OFFできないから。刹とか他の神はできるらしい。

・・・なんか悔しい。

と、いふことで

「あ～、なんだ。その、な  
「？（なんだろ？）」  
「伏儀さん〜・・・な？」  
「？？あ、呼び捨てでかまいませんよ？（何かまづこじりともした

かな)「

「そ、そつか

「は、はい(?)?」「

「じゃ、伏儀

「はい(?)どうしたんだろう?」「

「君の心の声が聞こえる

「え?(え?嘘?)」「

「いや、マジで。嘘じゃないから

「え?え!?(え!-)じゃ、じゃあ、さつきおきてたことは?」

「うん、簡抜け

「・・・(・・・)」「おー

ふ、伏儀さああああああああんんんん!!

「だ、大丈夫!俺は気にしていない!」

「・・・(・・・)本当にですか?」「

「ホントホント!..

「・・・ありがとうございます(良かつた)」

・・・ふう。

我が人生、波乱の予感しかしないのは・・・気のせいではない気がする。

伏儀さんとふあーすとこんたくと（後書き）

ふ、伏儀さんが・・・・・・

主人公が反則スグル・・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5772u/>

---

原作ブレイクも楽じゃない！。

2011年11月24日20時57分発行